

かんおんじこう

観音寺港（県管理地方港湾）

観音寺港は燧灘（ひうちなだ）に面する西讃地域の中核都市、観音寺市の西端に位置し、二級河川財田川、一ノ谷川、柞田川の流れ込む河口部を中心に開けた港湾です。

本港は、江戸時代初期に財田川河口左岸にあった湛甫が発祥であり、商港、漁港としての役割を果たしてきましたが、水深も浅く、規模も小さかったため、大正14年より、当時の観音寺町が町の発展をかけた大改修を実施し、一ノ谷川河口沖合へと港湾の拡大を図り、以後数次の改修を経て西讃地域を代表する近代港湾へと発展を遂げてきました。

これらの改修により、港には大型貨物船の着岸も可能となり、三豊地域で産する農産物、紡績製品の移出をはじめ、砂・砂利、石油製品の移入等で賑わう商港としての地位を確立したほか、前面の海域が豊かな漁場であることから、西讃地域の漁業および水産加工の拠点としても重要な位置を占めています。

また、財田川右岸の海浜には、同市のシンボルともなっている雄大な砂の芸術、「寛永通宝」を擁する「有明の松原」が広がっており、その背後には、四国霊場69番札所、観音寺および琴弾八幡宮の鎮座する景勝、琴弾山を控え、琴弾公園として広く人々に親しまれています。

背後に四国横断自動車道のあるすぐれた交通立地条件の中で、躍進を続ける西讃地域の中核港湾として、今後ますますの発展が期待されています。

